

§ 4 その他

I 応急手当と感染症

応急手当を行うことによって、肝炎やH I V（ヒト免疫不全ウイルス／エイズ）に感染する危険性はきわめて低いがゼロではありません。多くは血液を介して感染するため、止血を行う時はゴム手袋を重ねて装着したり、手指をビニール袋で覆うなどの方法で十分に感染防止を行ってください。

口対口人工呼吸を行う時は、口や鼻に直接触れないように感染防止用人工呼吸資器材（マスクや一方方向弁付感染防止用シート等）を活用して下さい。

人工呼吸実施後は、速やかにうがいをして下さい。もし、感染防護具を持ってない時や口対口人工呼吸がためられる時は、胸骨圧迫だけでも行ってください。

接触感染（血液や体液などで感染するもの）

ウイルス性肝炎・H I V感染症・赤痢・コレラ
腸管出血性大腸菌感染症O 1 5 7など

飛沫感染（咳やくしゃみで感染するもの）

インフルエンザ・百日咳・ジフテリア・マイコプラズマなど

空気感染（空気中に菌が浮遊し、それにより感染するもの）

結核・麻疹・水痘など

II 応急手当の実施に伴う法的責任

現場に居合わせた人（バイスタンダー）が行った応急手当について、これまで責任を問われた事例はありません。米国では「よきサマリア人法」という法律があり市民が勇気を持って行った行為は、法的責任は問わないとされています。

日本においては、このような法律の規定はありませんが、市民が応急処置等に故意又は重大な過失がない限り、法的責任を問われないという見解が出されています。

市民によるA E Dの使用に関しては、平成16年7月に厚生労働省から指針が示され現場に居合わせた市民がA E Dを用いることは、一般的に反復・継続的にA E Dを用いる可能性がないため医師法違反とはならないとされています。

心肺蘇生法やA E Dの使用は、人の命を救うために行う大切な処置です。救急講習で学んだ内容に基づいて自信を持って行ってください。

※ 「よきサマリア人法」

聖書の中で、よきサマリア人に関する有名な話があります。強盗に襲われて死にかけているユダヤ人を通りかかった司祭や人々は見て見ぬふりをしていましたが、一人のサマリア人はその人に助けの手を差し延べ、宿屋に運び宿代まで負担しました。この話をもとに、バイスタンダーの法的責任を免除する「よきサマリア人法」が米国で制定されました。

Ⅲ 119番通報と救急車の呼び方

固定電話もしくは携帯電話で「119」に電話をします。災害を目の当たりにしての通報は、不安や恐怖心から理性を失いがちになります。そんな時こそ落ち着いて、現場の状況をしっかり確認した通報が結果的に症状の悪化の軽減や早期の病院収容につながります。指令員が次の表のように尋ねますので、問いかけに答えてください。病状などでわからないことは「わからない」と答えていただいて構いません。また、通報するときは安全な場所から通報してください。

救急車要請時の通報の例	
指令員の問いかけ	通報の内容
消防119番です。 火事ですか救急ですか。	救急です。
救急車が向かう場所(住所)を教えてください。 周りに何か目標になるものがありますか。 【交通事故などの場合】 ・どちらからどちらへ向かっていましたか。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 亀山市〇〇町〇〇番地〇〇号、〇〇アパート〇階〇〇号室です。 ※ 「〇〇の東」と言うように近くに目印になる建物などがあれば伝えてください。 <ul style="list-style-type: none"> 【交通事故などの場合】 ・ 〇〇町〇〇交差点です。 ・ 国道〇号線、下り線〇〇キロポスト付近です。 ・ 〇〇町から〇〇町へ抜ける道で、〇〇橋を渡って東へ〇〇メートルぐらいの所です。 ・ 〇〇方面から〇〇方面へ向かうところでした。 ※ 国道(名阪を含む)や自動車専用道路では、路肩や中央分離帯の上に100メートルおきに道路起点からの距離が表示してあります。(キロポスト表示)
誰がどうしましたか 【共通事項】 ・ 年齢、性別、今の状態は 【急病の場合】 ・ 具体的な症状。 ※ 症状により詳細な情報を聞くこともあります。	<ul style="list-style-type: none"> 【急病の場合】 ・ 心疾患のある〇〇歳の父が、胸に痛みを訴えて20分ほどたちますが、治まりません。意識ははっきりしています。 ・ 道路に〇〇歳ぐらいの男性が倒れていて呼びかけても反応がありません。 ・ 〇〇歳の母が突然、割れるような頭痛を訴えています。普段から血圧が高いです。

<p>【ケガ（事故）の場合】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どのような事故ですか。 ・ケガ人は何名いますか。 ・ケガの程度を教えてください。 ・意識、呼吸、出血、骨折の有無など。 ・挟まれ、閉じ込めなど救助の必要はありますか。 <p>※症状により詳細な情報を聞くこともあります。</p>	<p>【ケガ（事故）の場合】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・〇〇歳のお爺さんが、はしごの高さ2メートルぐらいから落ちて頭から出血しています。意識ははっきりしています。落ちたところはコンクリートです。 ・トラックの追突事故で、男性の運転手1名が胸の痛みを訴えています。挟まれて車外へ出られない様子です。 ・小学生ぐらいの男の子が自動車にはねられて、道路上でぐったりしています。出血は見当たりませんが呼びかけても反応がありません。
あなたは今、安全な場所から通報していますか。	はい。安全です。
意識と呼吸はありますか 【意識の確認方法】	<ul style="list-style-type: none"> ・あります。 ・ありません。 ・分かりません。 <p>※口頭指導該当</p>
<p>【呼吸の確認方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・胸やお腹が動いているか。 ・いつもと呼吸は変わらないか。 <p>※意識、呼吸が無い場合は心肺蘇生法の口頭指導を行います。</p>	
症状に応じて発生の経緯、今までになつたことのある病気など詳しく確認します。	聞かれた内容に応じてわかる範囲で教えてください。
通報者の名前を教えてください。	名前は〇〇〇〇です。
救急車が向かいますのでしばらくお待ちください。	

～電話口頭指導について～

必要に応じ、119番通報時に心肺蘇生法を電話で指示しますので、指令員にしたがって積極的に実施してください。人工呼吸法がわからない場合や、口唇部に血液や嘔吐物がある場合は、人工呼吸は行わず胸骨圧迫のみ実施してください。

また、電話のスピーカー機能などを活用すれば、指令員の口頭指導を受けながら胸骨圧迫を行うことができます。

◎ 通報するにあたって

- ・番号は固定電話、携帯電話を問わず局番なしの「119」です。
- ・安全な場所から通報してください。
- ・携帯電話からの通報は、掛けた場所によっては他市消防本部へ繋がる場合があります。管轄外であることが判明したら直ちに管轄本部へ転送しますので、慌てずにそのままお待ちください。
- ・交通事故や大きな事業所からの119番通報時には、状況を把握していない人が通報を頼まれる場合があります。その際は、可能な限り、詳しい状況を確認してから通報していただくか、一度通報してから状況が把握でき次第、再度、通報をお願いします。

IV 新型コロナウイルス感染症流行期の一次救命処置

1 基本的な考え方

☆ 胸骨圧迫のみの場合を含め、心肺蘇生はエアロゾル（ウイルスなどを含む微粒子が浮遊した空気）を発生させる可能性があるため、新型コロナウイルス感染症が流行している状況においては、すべての心停止傷病者に感染の疑いがあるものとして対応する。

☆ 成人の心停止に対しては、人工呼吸を行わずに胸骨圧迫とAEDによる電気ショックを実施する。

☆ 子どもの心停止に対しては、講習を受けて人工呼吸の技術を身につけていて、人工呼吸を行う意思がある場合には、人工呼吸も実施する。

※子どもの心停止は、窒息や溺水など呼吸障害を原因とすることが多く、人工呼吸の必要性が高い。

2 新型コロナウイルス感染症流行期の一次救命処置の手順

安全の確認	<ul style="list-style-type: none">・自分がマスクを正しく着用できていることを確認する。・人数に余裕がある場合、通報や救命処置を行わない人は、窓を開けるなど部屋の換気を行ったり、多人数で密集しないように配慮する。
反応の確認	<ul style="list-style-type: none">・顔をあまり近づけないようにして、傷病者の肩を優しくたたきながら大声で呼びかける。
119番通報 AEDの要請	<ul style="list-style-type: none">・非流行期と同様に対応する。※AED使用によるエアロゾル発生に伴う感染のリスクは高くない。
呼吸の観察	<ul style="list-style-type: none">・呼吸を確認する際に、顔をあまり近づけないようにする。
胸骨圧迫	<ul style="list-style-type: none">・傷病者がマスクをしていれば、外さずそのままにして胸骨圧迫を開始する。・傷病者がマスクをしていなければ、胸骨圧迫を開始する前に、マスクやハンカチ、タオル、衣服などで傷病者の鼻と口を覆う。
人工呼吸	<ul style="list-style-type: none">・成人に対しては、人工呼吸は行わず胸骨圧迫だけを継続する。・小児に対しては、講習を受けて人工呼吸の技術を身につけていて、人工呼吸を行う意思がある場合には、人工呼吸も実施する。
AEDの使用	<ul style="list-style-type: none">・非流行期と同様に対応する。
救急隊への 引き継ぎ後の対応	<ul style="list-style-type: none">・傷病者を救急隊に引き継いだ後は、すみやかに石鹸と流水で手と顔を洗う。・手を洗うか消毒するまでは、不用意に首から上や周囲を触らない。・傷病者に使用したマスクやハンカチは、直接触れないようにして廃棄する。